

インドの中のチベット 秘境スピティーバレー撮影ワークショップ

DISCOVER SPITI VALLEY IN NORTH INDIA

持田あきら(日本旅写真家協会正会員)同行
SIA Photography社 主催

【日程】

2024年10月2日～10日
8泊9日(デリー市内発着)

おすすめポイント

最少催行人数4名～

- ①他では殆ど無い 秘境スピティーを撮る
- ②現地集合&解散型の撮影ワークショップ
- ③プロ写真家による撮影指導(初心者歓迎)
- ④世界中の写真家が注目する撮影ポイントを適切なタイミングでご案内

こんな方におすすめ!

通常のツアーでは殆ど催行されない、僻地での希少な撮影を経験したい!
プロ写真家による現地指導で、自分の撮影スキルを向上させたい!

お勧めの撮影スタイル

- ★ポートレート撮影
- ★ドキュメンタリー
- ★風景写真
- ★天体写真

★このワークショップは、SIA Photography社とのコラボとなります。

SIA Photography社はインド ムンバイの撮影ツアー専門の会社です。

代表のSaurabh氏(通称サイさん)はこれまでインド国内で多くの撮影専門のワークショップを開催してきました。彼の作品は、ナショナルジオグラフィック、ロンリープラネット、タイムズ等インド国外の写真誌にも多数掲載されており、インドを代表する写真家のひとりとして知られています。

Saurabh氏のフィールドは幅広く、日本人には殆ど知られていない僻地や珍しい例祭に焦点を当てたユニークな撮影専門のツアーを開催しています。

これまで、主にインド人写真家を対象にワークショップを開催してきましたが、一昨年より私とのコラボによって、ナガランド州の奇祭、タール砂漠のフェス。パラナシのディワリ祭、グジャラート州と日本人の写真家の方々を案内してきました。

今回のワークショップは、スピティーを何度も訪れて撮影を重ねているSaurabh氏の企画したワークショップに日本人写真家の持田が同行し、日本人参加者の皆様の撮影を全面的にサポートさせていただきます。

(シングル利用)料金 USD 1,850 (2人/部屋) USD 1,600

※過去に持田あきら海外ワークショップにご参加の方は、上料金よりUSD50値引き致します。

料金に含まれているもの

- ①現地での宿泊 8泊分
- ②食事付
- ③デリー市内指定ホテル集合
- ④撮影指導及びガイド

以下のものは料金に含まれていません

- ①日本からインドまでの航空券
- ②アルコール及び提供される食事以外の間食等
- ③ホテル内のミニバーやランドリーサービス、マッサージ等の利用
- ④提供される移手段以外の個人による移動費等
- ⑤チップ及びお土産
- ⑥旅券発行にかかる費用及び海外旅行保険

インドの中のチベット 秘境スピティーバレー撮影ワークショップ

DISCOVER SPITI VALLEY IN NORTH INDIA

撮影HIGHLIGHTS

神々の聖域に触れる撮影旅

【スピティーバレー】この地の名を知る日本人はどれだけいるのでしょうか？

インド北部のヒマチャル・プラデッシュ州の北東部、中国の西チベットとインドの国境地帯に位置しています。

タージマハルやダージリンを知っていても、スピティーの名を知る人は、よほどのインド通かチベット文化に造詣のある人でしょう。

ここは、ヒマラヤの奥深く、平均標高が3500mと富士山の頂上と同程度の高地です。

この地に住む人々は、チベット族で私達と同じモンゴロイド系です。

10世紀にはグゲ王国が栄え、この地にチベット仏教が定着します。現在でもこの地に住む人々は熱心なチベット仏教徒であり、文化も景色もそれら全てが私達のイメージするインドとは異なります。

スピティーのあるヒマチャル・プラデッシュ州は同じくチベット文化圏のラダック州が隣接していますが、州都のレーに空港がある事から、現在ラダックには世界中から多くの旅行者が訪れています。

然しながら、スピティーバレーは、そのアクセスの不便さから訪れる旅行者は限られ、未だ秘境と憧憬を残した貴重な場所といえます。

この地を写真に収めた日本人の写真家は、ほんの僅か。

今回は秘境スピティーを10年以上に渡り、写真を撮り続けてきた友人で写真家のSaurabh氏の協力によってワークショップの開催を行います。

圧倒的な山岳風景

標高4,000mを超えると、酸素は薄くなり生息する動植物も限られてきます。薄い高地の空気を通して見る景色は、地上で見るとは全く異なり、鮮やかなビジュアルで目に焼き付いて離れません。

大チベット平原の一角にあるスピティーでは、雨季が終わり雪に覆われる僅かな間のみ、旅行者が神々の聖域に触れる事が許されます。



インドの中のチベット 秘境スピティーバレー撮影ワークショップ

DISCOVER SPITI VALLEY IN NORTH INDIA

撮影HIGHLIGHTS

天空の僧院

このワークショップの道中では、幾つものチベット僧院を訪れ撮影する機会があります。スピティーバレーの中心地カザ村の北西10kmに位置するキーゴンパ(キー修道院)はそれらの中でも最も大きく、城壁のような外観はスピティーを象徴する建物です。

ゲルク派の僧院でもあるキーゴンパには、僧侶学校が併設されており、多くの小坊主達が修行の為に暮らしています。



インドの中のチベット 秘境スピティーバレー撮影ワークショップ

DISCOVER SPITI VALLEY IN NORTH INDIA

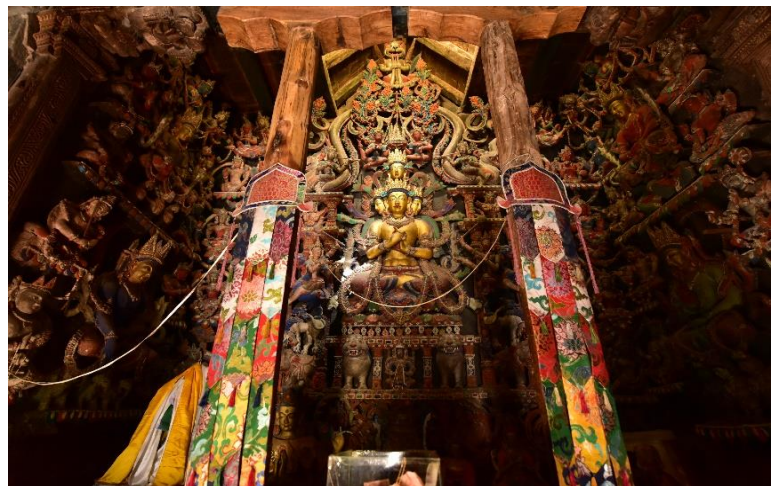
撮影HIGHLIGHTS

仏教芸術の宝庫

スピティーには10-11世紀に栄えたグゲ王朝時代に多くの仏教遺跡が建造されました。西チベット一帯を支配したグゲ王朝は後に現在のチベット仏教の主流であるゲルグ派の源流とされています。

当時に創られた美術品は仏像や壁画として、僧院の中に保存されています。

極度に乾燥したスピティーの気候と、代々継承して保護している僧侶達の努力により、これらの貴重な美術品は、後のムガールの侵攻からも守られ、素晴らしい保存状態のままその姿を鑑賞する事ができます。



インドの中のチベット 秘境スピティーバレー撮影ワークショップ

DISCOVER SPITI VALLEY IN NORTH INDIA

撮影HIGHLIGHTS

ポートレート撮影

雄大な山々や美しい僧院など風景写真家には魅力の尽きないスピティーですが、この地に暮らす人々のポートレート撮影も素晴らしい題材が溢れています。

独自の文化と宗教を何世紀にも渡り守り続けたチベット族の人々は、中国側では当局の弾圧により肅清されてきました。然しながらインド領内では共産党の弾圧は及ばずに、古い文化と伝統に触れる事ができます。

本来のチベット文化が残っているのは、中国以外ではスピティーとラダック、シベリアの一部のみです。



インドの中のチベット 秘境スピティーバレー撮影ワークショップ

DISCOVER SPITI VALLEY IN NORTH INDIA

撮影HIGHLIGHTS

天体撮影

標高が高く、空気の薄いスピティーでは、世界でも屈指の天体風景を見る事ができます。今回同行する写真家のSaurabh氏は天体写真家としても優れた作品をこの地で数多く撮影しています。

この季節は晴天に恵まれる事が多いので、素晴らしい天体写真を撮影する事ができます。

就寝前の少しの時間、温かい防寒着に身を包み、三脚を立てて天体写真の撮影に挑戦して下さい。

天体撮影を得意とするプロが丁寧にレクチャー致します。



インドの中のチベット 秘境スピティーバレー撮影ワークショップ

DISCOVER SPITI VALLEY IN NORTH INDIA

撮影HIGHLIGHTS

スピティーバレーと同じくチベット文化が色濃く残るラダック州も、グゲ王朝の影響を受けた同じ文化と類似した自然を見る事ができます。然しながら、ラダック州の州都には空港があり、その利便性から現在では多くの旅行者が国内外から訪れるようになりました。

一方で、空港の無いスピティーバレーでは、未だ陸路以外のアクセスがありません。近年、インド政府の急速なインフラ整備により、道路の舗装化が進み、村々に電気が通るようになりました。実際、スピティーの人々の生活は急速に変わりつつあるものの、未だ訪れる旅行者は少なく、観光化には至っていません。

今回のワークショップでは、未だ秘境の趣を色濃く残す、グゲ王朝の最後の聖域に入り、貴重な姿を撮影して頂きます。



Welcome to Spiti valley



インドの中のチベット 秘境スピティーバレー撮影ワークショップ

DISCOVER SPITI VALLEY IN NORTH INDIA



同行講師

持田 あきら (日本旅写真家協会正会員/多摩美術大学卒)

スピティー峡谷は、平均標高3000mを超えたチベット高原の西南に位置し、地理的に外界と隔絶されています。冬の間は雪に閉ざされ、この地に入れるのは夏から秋の僅かな間です。

ワークショップでは、この地が雪に覆われる前の秋に開催します。

今回も友人で写真家のSaurabh氏(SIA社)とのコラボにより実現しました。

初心者の方にも丁寧に指導させていただきますので、皆様のご参加をお待ちしております。



撮影コーディネーター兼講師

Saurabh A Chatterjee (SIA Photography社代表/写真家)

あきら氏とのコラボは今回のワークショップで6回目となります。

私はこれまでインド各地で撮影専門のワークショップを100回以上開催してきました。

今回開催するスピティーは、10年以上前から幾度も通っております。

この季節は1年の内で最も素晴らしく快適に旅ができます。

広大なインド国内でも屈指の絶景が広がり、素晴らしい撮影ポイントが満載です。

ワークショップの責任範囲

今回僕が主催する撮影ツアーはワークショップという形態をとっています。

これは、現地発着型の撮影指導を前提としており、海外では多くの写真家が同様のツアーを催行しています。そのため、現地までの移動方法、ビザ手配は全て参加者各個人の責任に於いて対応して頂きます。

航空機のキャンセル等により、当日までに現地に入れなない場合は、他の参加者のツアー催行を優先するため状況によってはワークショップへの参加をお断りする事もあります。

その為、フライトに於いては無理のないスケジュールでお手配願います。

催行中は参加者の安全を第一に対応致しますが、不慮の事故や病気に備えて必ず各自の責任に於いて旅行傷害保険にご加入下さい。

参加者の方に病気や怪我、政変や天候等による大きな問題が発生した場合、状況に応じて対応を致しますが、その際ツアーの一部もしくは全てを途中で中断する事もあります。途中で未催行もしくは大幅な変更が生じた場合は、都度誠意をもって対応致しますが、場合によっては返金に応じられない場合もありますので、予めご了承願います。不明点等は、別途お問合せ下さい。

line ID [kurohei0725](#) Mail mochidakurohei@gmail.com